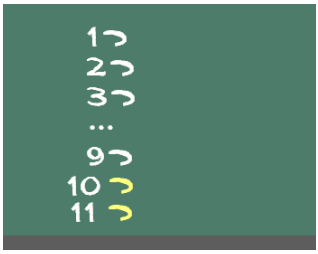
雑感　150 つ

■　1 年生の数学 A の試験．ある組合せの問題で「次のような場合はいくつあるか」との答えに，「150 つ」という解答をした者が何人もいた．正しくは「150 個」だが，計算で 150 と出した後，問題文を確認して「**いくつ**あるか」だから，機械的に「150 **つ**」と答えたものと思われる．
　（頭の中で）声に出してみれば，これはおかしいと気づくはずなのだが，そこまで考えが及ばなかったということだろうか．

■　考査返却のとき，何も言わず「150 つ」と板書すると，クスクス笑う生徒もいれば，ポカンとしている生徒もいる．
　さらに，「1 つ，2 つ，3 つ，…，9 つ，10 つ，11 つ」と板書すると「あー」と声が上がる．



　「つ」が使えるのは（原則？）1 桁の場合である．
　こう言ったことを規則として意識していない人が多いだろうが，日本語を母語としている人は何気なく使い分けている．
　ただ,「108 つ（ひゃくやっつ）」という言い方に違和感がないのは，除夜の鐘のせいだろうか．もっとも昔は「100（もも）あまり 8 つ」と言ったのかも知れず，違和感がないのはもっともなのかも知れない．でも，「103 つ（ひゃくみっつ）」には個人的には違和感がある．

■　なお，次に参考となる記載がある．
http://www.sf.airnet.ne.jp/~ts/language/number/ancient_japanesej.html

■　こうなると，面倒くさいから何でも「個」にしちゃえという合理主義がはびこり，日本語の表現力の豊かさが失われて行きかねない．
　実際,「ついたち，ふつか，みっか，よっか，いつか，むいか，なのか，ようか，ここのか，とおか」を「1 にち，2 にち，3 にち，…，9 にち」と言う生徒が，最近少なくない．
　数学の問題であるのかないのかよく分からないジャンルだが，家庭でも学校でもこういう指導が抜け落ちつつあるような気がする．